

第四 防疫思想ノ普及啓發

防疫思想並知識ノ普及啓發ニ就テハ、一般衛生思想ノ向上啓發ニ關スル施設ト共ニ、或ハ防疫獨自ノ方面ヨリ年々講演會、講習會、座談會、展覽會、活動寫眞等ノ開催ヲ行ヒ居リ、又各警察署ニ於ケル管内市町村ノ衛生關係者協議會、健康週間、防疫週間、「蠅取デー」等ノ催シヲ行ヒ、一方文書圖書ニ依ル宣傳トシテハ各種「パンフレット」「リーフレット」「ポスター」等ノ掲示配付ヲ行ヒ居ル狀況ナリ。第二章第七節(五〇頁)參照

第五 腸「チフス」豫防注射及内服

一 豫防注射及内服施行成績

豫防注射 本縣製劑ニ係ル腸「チフス」豫防液ヲ用ヒテ年々各市町村ニ於テ施行シ居リ、縣ニ於テハ可及的醫師ノ派遣ヲ計リ應接シツ、アリ。

昭和八年以前ハ感作「ワクチン」ヲ用ヒタリシガ、昭和九年ヨリ加熱「ワクチン」ニ改メ、一c.c中菌量〇・六疋トシ二回注射法ニ依リ大人標準量ヲ一・五c.cトシ、老若ニ因リ若干減量ス。

最近十ヶ年間ニ於テ平均一ヶ年一三二、六〇三名ノ完了者ヲ算シ、近年ハ年々増加ノ傾向ヲ迪リツ、アリ。昭和十一年ニハ約二十一萬人ノ完了者ヲ見タリ。第一回注射人員ニ對スル第二回注射完了率ハ昭和九年七九・〇五%、同十年八一・七八%、同十一年八二・三一%ト年々良好ニ向ヒツ、アルモ、猶二割弱ノ完了者ヲ見居ル狀況ナリ。

豫防錠内服 昭和五年ヨリ本縣ニ於テ腸「チフス」「エンテロワクチン」ヲ製劑、一錠ノ菌量五〇疋ナリシガ、昭和十二年度ヨリ五疋トシ、大小人共三錠ヲ三回ニ連用内服シ居リ、爾來年々豫防注射ト併用シ居ルモ、過去七ヶ年間ニ於テ平均一ヶ年服用人員二六、四〇〇餘名ヲ算ス。

更ニ民間販賣ニ係ル内服錠「ヘテロゲン」其他アリ。其ノ服用人員其ノ他ニ就テハ正確ナル調査困難ナルモ、可及的調査ノ

範圍ニ於テハ昭和八年以降四ヶ年間平均ニ於テ一ヶ年約一二、二〇〇餘人ノ服用者アリ。

以上三者ノ豫防人員ヲ合算スレバ、十ヶ年間平均ニ於テ一七一、二四八人トナリ、縣下總人口ニ對シ一四・七七%ニ當ルモ、最近三ヶ年間ノ趨勢ニ就テ觀ルニ、昭和九年一五・七一%、同十年一九・五三%、同十一年二〇・九五%ト年々豫防率ノ向上ヲ見ツ、アリ。(次表參照)

二 豫防注射並内服後ノ罹患率

豫防注射、「エンテロワクチン」並「ヘテロゲン」内服ノ三者ニ就キ其ノ罹患率ヲ觀ルニ次表ノ通りニシテ、年々依リ高低アルモ平均左ノ如シ。

即チ豫防注射ハ最近十ヶ年間平均ニ於テ、完了人員一萬ニ付五・一三人「エンテロワクチン」ハ既往七ヶ年間平均ニ於テ四・五四人「ヘテロゲン」ハ既往四ヶ年間平均ニ於テ六・五六人(有効期間ヲ六ヶ月トセバ五・七三人)ニシテ「エンテロワクチン」内服ガ最モ罹患率低ク、次デ豫防注射、「ヘテロゲン」ノ順ニシテ、無豫防者ノ平均罹患率一二・五五人ニ比スレバ約一割合ニ低率ナリ。(次表(イ)參照)

(イ) 最近十ヶ年間腸「チフス」豫防注射並豫防錠内服成績表

注射施行年次	豫防注射		エンテロワクチン内服		ヘテロゲン内服		無豫防者ノ罹患率(%)
	完了人員	罹患率(%)	内服人員	罹患率(%)	内服人員	罹患率(%)	
昭和二年	一六、〇九四	二・六	—	—	—	—	八・八六
同三年	一〇一、一七〇	四・九	—	—	—	—	九・八六
同四年	一一〇、一六六	五・六	—	—	—	—	一〇・九八

平均	同 十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年	同 六年	同 五年
一三、六〇五	一〇九、五七五 X	一〇五、四三三	一五七、四四八	一〇六、七九五	九一、八八〇	六九、四七九	一〇〇、〇三三
六八	七〇 X	五五	一四一	一一一	六四	三七	六七
五・二三	三・三四	二・七〇	八・九六	一〇・四九	六・九七	五・三三	六・七〇
一六、四三九	一七、一七五 X	二六、一八七	一九、四七六	三四、八六九	二一、四八九	五〇、五二七	五三、六二二
二三	五 X	三	八	三	七	五〇	五
四・五四	一・八三	一・二五	四・一一	〇・八六	三・三六	九・九〇	九・三三
一一、一〇六	一〇、一三三	一〇、四八〇	一三、〇八二	五、〇〇〇			
(七)八	X X	(〇)〇	(五)八	(三)〇			
(五・七三)	(五・四三)	(九・五四)	(三・八二)	(六・〇〇)			
二・五五	九・八	二・三三	一八・三七	一四・一八	一三・二四	一一・二二	一三・一九

備考 1、豫防注射第一回注射人員ニ對スル第二回完了率
 昭和九年 七九・〇五% 昭和十年 八一・七八% 昭和十一年 八二・三一%
 昭和九年 一五・七一% 昭和十年 一九・五三% 昭和十一年 二〇・九五%
 十ヶ年間平均 一四・七七%

- 2、縣下總人口ニ對スル豫防率(注射、内服合計)
- 3、豫防注射並内服罹患者ハ何レモ左ノ有効期間内ニ發病セルモノトス
 ▽豫防注射 第二回完了後一ヶ年以内、但注射完了後三週間ハ免疫性獲得不確定及潜伏期トシテ無効ニ入ル
 ▽エンテロワクチン内服 豫防注射ト同シ、但内服後ノ無効時間ヲ四週間トス
 ▽ヘテロゲン内服 同劑説明書ニ依レバ有効期間六ヶ月トアルモ一般内服藥ノ一ヶ年ニ對應セシムベク一ヶ年間ヲ有効期間トシ、別ニ六ヶ月ヲ有効期間トセルモノヲ()内ニ掲ゲタリ。内服後ノ無効期間ハ三週間トス
- 4、罹患者ハ當該年ノ注射内服施行者中ノ發病者ニシテ、注射内服施行ノ翌年ニ入りテ發病セルモノヲ含ム

5、昭和十一年分ノ罹患者及罹患者率ハ昭和十一年末迄ノ發病者ニ基クモノニシテ、翌年ニ入りテ發病セルモノハ含まズ、特ニ×印ヲ附シ置キタリ
 (ロ) 昭和十一年腸「チフス」ワクチン交附數量及豫防注射人員各署別表

警察署別	種別		豫防注射人員		内服人員	内服人員
	ワクチン交附數量	エンテロワクチン	第一回	第二回完了		
仙臺	一〇、一一三	一、五二〇	一三、七三八	一〇、四六一	四、九一三	三、五二七
大河	八、七六六	一、四四六	八、一三四	七、一九五	四、一〇	
白石	〇〇、七〇〇	一、五三三	六、七〇六	六、〇六一	三、三四四	三、二四七
角田	〇四、九〇〇	一、七五〇	八、七三四	七、二四五	一、〇七二	
亘理	九、五五六	〇〇〇	九、六六九	八、六二二	一、七二七	
岩沼	一、九七〇	一、九七〇	一、九二七	一、七五〇	六、一九〇	
鹽釜	九、九二〇	〇〇〇	一〇、六四二	八、六〇八	五、八〇	
吉岡	一、一〇〇	一、一〇〇	一、六〇六	一、五二二	二、五四五	
中田	六、七〇〇	二、六〇〇	六、六五八	四、一七一	二、五四五	
古川	〇、四六〇	一、一〇〇	二、〇一七	一、七二五	二、〇五一	
涌谷	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	九、五九九	七、九二〇	七、八六	八五
岩出	〇、一〇〇	八、六〇〇	八、五七六	四、九七六	七、八六	
築館	一三、七〇〇	一、一〇〇	二〇、七四七	一六、一六九		

若柳	登米	佐沼	石卷	飯野	志津	氣仙	計
16,800	8,100	11,400	18,010	18,480	5,080	27,360	281,360
1	1	11	100	101	50	1,180	29,510
16,215	8,460	11,081	19,117	18,909	3,398	25,257	234,595
131,211	3,653	9,308	16,601	12,672	2,593	19,859	209,567
1	1	7	78	3,752	50	985	27,775
1	1	110	13,164	1	1	1	10,168

第六 「デフテリア」豫防注射

一 「デフテリア」シツクテスト 及豫防注射成績

本縣ニ於テ「デフテリア」ノ豫防注射ヲ開始セルハ昭和五年十月ニシテ、爾來年々シツク反應ノ検査ト共ニ豫防注射ヲ行ヒツ、アリ。

シツクテストハ累計三十四ヶ町村ニ及ビ、其ノ検査人員四二、九三一人、内陽性者一九、九二八人ニシテ、陽性率四六・四二%ナリ。

豫防注射ハ、右三十四ヶ町村中豫防注射未施行四ヶ町村ヲ除キ三十ヶ町村及シツクテスト不施行ノミ施行ノモノ一村ヲ加ヘ合計三十一ヶ町村、完了人員一三、〇四三人ニシテ、之ヲ内譯スルトキハ、「アナトキシシ」注射並「フォルモワクチン」注射各三回注射法及二回注射法ノ四者ニシテ、其ノ完了人員並罹患者、罹患者等次ノ如シ。

「アナトキシシ」三回法ハ十ヶ村、完了人員四、二六〇人、内注射後ノ罹患者累計二五名(萬分率五八・六九)ニシテ、同二回法ハ七ヶ村、完了人員三、六三七人、罹患者累計一〇名(萬分率二七・五〇)ニシテ、二回法ハ三回法ニ比シ約二分ノ一ノ低率ナリ。之ハ種々比較條件ノ相違ニ因ル所ナランモ、二回法ハ比較ノ最近ノ施行ニ係リ、三回法ハ以前ノ施行ニ係ル爲メ、主トシテ注射後ノ經過期間ノ長短ニ原因スル所大ナリト思惟セラル。

「フォルモワクチン」三回法ハ十ヶ町村、完了人員三、五九七人、内罹患者二〇名(萬分率五五・六〇)ニシテ同二回法ハ四ヶ村完了人員一、五四九人、内罹患者二名(萬分率二・九一)ニシテ「フォルモワクチン」ニ於テハ更ニ二回法ガ三回法ノ約四分ノ一ノ低率ナルモ原因ハ「アナトキシシ」ノ場合ト同様ナリト考ヘラル。

「アナトキシシ」ト「フォルモワクチン」トヲ各三回法、二回法ニ就キテ對比スルニ、三回法ニ於テハ「アナトキシシ」ノ罹患者率五八・六九ニ對シ「フォルモワクチン」五五・六〇ニシテ大差ナキモ、二回法ニ於テハ「アナトキシシ」ノ二七・五〇ニ對シ「フォルモワクチン」一一・九一ニシテ「フォルモワクチン」ガ約二分ノ一ノ低率ナリ。

以上四者ヲ通覽スルトキハ、各町村ニ依リテモ高低區々ナルガ、之ヲ綜合スルニ注射後ノ罹患者率ハ完了人員一萬ニ付四三・七〇人ノ割合ナリ。(次表参照)

「デフテリア」シツクテスト並豫防注射施行成績表 (自昭和五年十月至同十一年末)

區	種別	シツクテスト		豫防注射	
		施行年月	検査人員	完了人員	罹患者
三	伊具郡大張村	昭和六、四	六九	二八五	一
	亙理郡達限村	昭和六、四	一、四九二	五〇	一

射注防豫	射注シチタワモルオフ													
	法回二					法回三								
	同	同	栗	牡	計	本	同	刈	名	本	同	柴	桃	亘
桃生郡中津山村						本吉郡新月村	同	刈田郡白川村	名取郡開上町	本吉郡氣仙沼町	同	柴田郡川崎村	桃生郡宮戸村	亘理郡荒濱村
八、三						八、二	七、七	七、五	七、四一五	六、二	六、五	六、一(II)	六、四(II)	五、二(II)
一、四九六						一、三、七、七二	四八二	二、〇八一	二、一七四	二、四〇	一、七八五	二、一九六	四六八	一、四三三
八六五						六、一九六	三三一	七、一〇	四八八	八九	九一九	一、二六	八六	七五四
五七、八二						四四、九九	六八、六七	三三、二二	六、七、二二	二、三、四、五	五、一、四、八	五、一、二、〇	一、八、三、八	五、三、六、三
							七、二、一、八、一	七、八、一、九	七、五、一、六	七、一、一、二	六、八、一、九	六、六、一、七	六、五	五、二、三、六、一、一
							八、二、一、三	七、八、一、九	八、二、一、三	七、一、一、二	六、八、一、九	六、六、一、七	六、五	六、五
							三、五、九、七	三、〇、七	三、四、六	三、四、六	四、二、九	六、五、一	六、五	四、三、三
							二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	六
							五、五、六、〇	三、四、四、八	七、九、四	六、五、一、五	五、七、八、〇	二、三、三、一		一、三、八、九

射注シキトナア	射注シキトナア												
	法回二					法回							
	黒	同	同	刈	計	牡	栗	登	同	黒	亘	刈	登
登米郡豊里村	黒川郡粕川村	同小原村	同大鷹澤村	刈田郡宮村	計	牡鹿郡荻濱村	栗原郡畑岡村	登米郡吉田村	同鶴巢村	黒川郡落合村	亘理郡坂元村	刈田郡福岡村	登米郡米山村
七、一〇(II)	一、一、三	一、一、五	九、一、三	八、一、二	九、一、一、三	八、五	八、四	八、五	八、二	八、二	七、四	六、四	六、八
一、九、五、五	八、七、二、五	四〇二	一、一、四、八	八、三、三	一、八、六、一	一、九、三、四	九、五、一	一、五、九、八	一、九	一、八、四、五	一、八、四、五	一、九、二、一	一、八、六、八
一、〇、五、〇	四、二、五、一	二〇六	五、七、〇	五、五、七	七、八、四	七、五、九	七、八、一	五、九、四	不	三、三、六	九、二、八	一、〇、一、五	一、〇、三、〇
五、三、七、一	四、八、七、二	五、一、三、七	四、九、六、五	六、六、九、五	四、二、一、三	三、九、二、五	八、二、一、三	三、七、一、七	施	三、三、六	五、八、二、九	三、四、五、一	五、三、〇、〇
五、一〇、一、三	一、一、三	一、一、〇	一〇、一、一	九、五、一、六	九、五、一、六	九、五	八、二、一、二	八、二、一、二	八、二、一、九、一	八、四、一、五	八、四、一、五	六、一〇、一、三(II)	六、二、一、七、一
四、六、二	三、六、三、七	一、八、七	四、四、六	八、〇、四	七、九、七	四、六、九	五、〇、五	四、三、〇	八	四、二、七	八、三、〇	一、六、〇	七、二、二
四	一〇			一	一	五	三	一	一	一	一	二	一
八、六、五、八	二、七、五、〇			二、二、四、四	二、三、五、五	一、六、六、一	五、九、四、一	一、五、六、六、三		一、一、四、九、四	二、三、九、八	三、三、九、〇	一、四、〇、四

合 計	未 施 行		計		三 回 法		二 回 法		計
	刈 田 郡	白 石 村	陽 性	陰 性	陽 性	陰 性	陽 性	陰 性	
計	10,923	1,013	5,730	2,521	4,831	481	4,831	481	4,831
	4,931	1,928	2,632	1,111	2,632	263	2,632	263	2,632
	1,928	481	1,111	481	1,111	481	1,111	481	1,111
	2,632	481	1,111	481	1,111	481	1,111	481	1,111
	4,831	481	2,632	263	2,632	263	2,632	263	2,632
	1,111	481	481	263	481	263	481	263	481
	1,111	481	481	263	481	263	481	263	481
	1,111	481	481	263	481	263	481	263	481
	1,111	481	481	263	481	263	481	263	481

備考 1、シツク反應ハ(+)及(±)ヲ全部陽性トス
 2、「アナトキンシ」三回法萩濱村及同二回法粕川村ハ北里研究所ノモノ他ハ傳染病研究所ノ豫防液使用
 3、注射後ノ罹患者ハ注射完了後三週間以後ノ發病者ニシテ且昭和十一年末迄ノ罹患者ヲ累計ス

二 シツクテスト陽性率性別年齢別

シツクテストノ陽性率(十一以上ヲ陽性トス)ハ一歳ヨリ十七歳ニ至ル男女平均ニ於テ四六・九五%ナルモ、各年齢別及性別ニ觀ルトキハ左ノ如シ。

即チ年齢別ニ於テハ、算ヘ歳三歳ノ六六・八七%陽性ヲ最高トシ、次デ二歳ノ六四・八九%ヨリ順次年齢ノ高昇スルニ從ヒテ低率トナリ、十四、五歳ニ至レバ二分ノ一以下ニ低下ス。

性別ニ於テハ、一般ニ女子ハ男子ヨリモ高率ニシテ、各年齢平均ニ於テモ男四五・五一%ノ陽性ニ對シ女四八・四三%ニシテ約三%ノ高率ナリ。(次表参照)

「ヂフテリア」シツクテスト陽性率性別年齢別比較表

年齢別	性別	成績別	検査人員	陽 性		人 員	陽 性 率 %
				(+) 以上	(±)		
計				101	48	149	41.57
一 歳	計		445	117	58	175	39.43
二 歳	計		365	143	62	205	55.61
三 歳	計		341	185	79	264	77.42
四 歳	計		375	171	84	255	64.27
五 歳	計		395	152	79	231	58.73

年齢別	性別	成績別	検査人員	陽 性		人 員	陽 性 率 %
				(+) 以上	(±)		
計				101	48	149	41.57
一 歳	計		445	117	58	175	39.43
二 歳	計		365	143	62	205	55.61
三 歳	計		341	185	79	264	77.42
四 歳	計		375	171	84	255	64.27
五 歳	計		395	152	79	231	58.73

六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲
計 女	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	女 男
1,554 3,140	1,725 1,530 3,255	1,800 1,719 3,519	1,564 1,809 3,373	1,588 1,607 3,195	1,619 1,643
200 1,365	682 730 1,412	646 636 1,282	493 583 1,076	550 453 903	411 443
131 278	141 155 296	148 164 312	128 194 322	140 147 287	125 141
832 1,645	833 885 1,718	622 777 1,399	611 777 1,388	590 601 1,191	536 584
53,899 52,331	47,771 51,116 98,887	49,771 46,554 96,325	49,715 42,995 92,710	57,155 57,446 114,601	53,511 55,554

十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲
計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男
1,352 1,351 2,703	1,105 965 2,070	1,097 682 1,779	586 411 1,000	499 333 832
736 393 343	255 257 512	280 225 505	109 91 198	11 10 21
115 127 242	75 61 136	103 73 175	28 46 74	6 1 7
466 520 986	328 330 658	343 197 540	133 127 260	17 10 27
58,447 58,449 116,896	29,866 32,995 62,861	31,885 28,889 60,774	23,048 33,548 56,596	34,699 31,225 65,924

合 計	十七歳	
	計 女	計 男
計 女 男	計 女 男	計 女 男
10,758	10	10
10,311	13	13
41,008	13	13
7,598	3	3
7,943	3	3
1,888	1	1
1,933	1	1
7,541	1	1
1,888	1	1
9,446	3	3
9,846	3	3
19,292	6	6
45,551	3	3
48,443	3	3
46,945	3	3

備考 1、本表ハ昭和五年十月シツクテスト開始以降昭和十一年末ニ至ル累計三十四ヶ町村(四二、九三一人)中年齡別不明ノ互理郡坂元村分(一、八四三人)ヲ除キタル三十三ヶ町村ノ集計ナリ
2、年齢ハ算ヘ歳ニ依ル

第七種 痘

痘瘡ハ昭和二年ニ二名ノ患者發生セル以後近年ハ全ク發生ナク、其ノ跡ヲ絶チタル狀況ナルモ、各市町村ニ於テハ夫々種痘法ノ規定ニ基キ年々定期種痘ヲ施行シツ、アリ。其ノ成績次表ノ通ナルモ未種痘者一、〇〇〇一、〇〇〇名ヲ算シ居ルハ遺憾ナリ。

最近五ヶ年間定期種痘成績表

年 別	種 痘 種 別	公 種		私 種		未 種 痘
		善 感	不 善 感	善 感	不 善 感	
計	痘	計	計	計	計	

昭和十年	昭和九年		昭和八年		昭和七年	
	第二期	第一期	第二期	第一期	第二期	第一期
第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回
二七、三八六	一、八九三	二七、四〇五	二、二七三	二〇、五二〇	一、四六五	一、二五八
三、七六二	一八三	三、七九六	一、〇五三	五、八三五	一、九六五	一、四八九
一一三	一七	一一五	二九	五五七	九九	三八五
三、七〇〇	二、〇九二	三、三三六	二、四九〇	二、六、九二二	三、五一九	三三、八七九
七	三	七三	三〇	二八	三	八五
一	一	二	二	一	一	一〇
一七	三	七五	三三	二八	一〇	八五
三九七	一、九七八	四四六	一	五三八	二、六二七	一、〇八五

昭和十一年		昭和十一年		昭和十一年	
第二期	第一期	第二期	第一期	第二期	第一期
第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回
二、五三	三、八七	二、一三	二、六三	二、五三	三、八七
九六	一、三四	一、九六	一、九六	九六	一、三四
三、四八	三、八、〇七	三、四八	三、八、〇七	三、四八	三、八、〇七
二六	二六	二六	二六	二六	二六
一	七	一	七	一	七
七	三三	七	三三	七	三三
二六	一、六三	二六	一、六三	二六	一、六三

第八 細菌検査ノ状況

患者ノ早期診断、保菌者検索、其ノ他ノ目的ヲ以テ縣下七ヶ所ノ縣立細菌検査所ニ於テ細菌検査ヲ行ヒ居ルガ、其ノ状況左ノ如シ。

一 最近十ヶ年間細菌検査件數

昭和二年ヨリ同十一年ニ至ル最近十ヶ年間ニ於テ、昭和七年以前ハ概ネ三萬件臺ノ検査ナリシガ、以後八、九、十ノ三ヶ年間ハ四萬一六萬件臺ニ増加シ、就中昭和九年ニハ六萬九千件ニ達シタリ。昭和十一年ニ至リテハ患者ノ減少ニ伴ヒ三萬五千件ニ減少セリ。(次表参照)

最近十ヶ年間細菌検査件數表

年次	法定傳染病ニ係ルモノ	其ノ他	計	備考
昭和二年	二五、一五	×	二五、一五	法定傳染病以外分不明

年次	法定傳染病ニ係ルモノ	其ノ他	計
同三年	二九、一二八	四三	二九、一七一
同四年	二九、一六〇	一、三八二	三〇、五四二
同五年	二八、一三	三、七九七	三一、九一〇
同六年	三四、三八八	二、九七八	三七、三六六
同七年	三〇、二〇〇	二、二五六	三二、四五六
同八年	四〇、八九七	三二八	四一、二二五
同九年	六七、八七〇	一、二五一	六九、一三一
同十年	五一、五五三	二、三九六	五三、九四九
同十一年	三四、九六〇	四七七	三五、四三七

二 細菌検査所別

本縣立細菌検査所ハ大正五年創設ニ係ル縣衛生課検査所ヲ始メ、爾後増設ヲ見タル白石、小牛田、築館、登米、石巻、氣仙沼ノ各地ニ合計七ヶ所ナルモ、衛生課内検査所ニ於ケル検査ガ大半ヲ占メ、昭和十年ニハ總數ノ五五%餘、十一年ニハ六六%餘ナリ。(次表参照)

細菌検査所別検査件數表

検査所別	昭和十一年	昭和十一年	管轄區域	開設年月
検査件數	同上	検査件數	同上	
衛生課内	二九、八二三	五五、二六	仙臺市、名取郡、亶理郡、伊具郡ノ一部、宮城郡、黒川郡、桃生郡ノ一部	大正五年春
白石	三、〇九三	五、七三	刈田郡、柴田郡、伊具郡ノ一部	昭和五年三月

小 牛 田	築 館	登 米	石 卷	氣 仙 沼	計
六、二九七	五、二九九	二、六四〇	三、四三七	三、四三〇	五、九四九
一、一七七	九、七一	四、九〇	六、三七	六、六六	一〇〇、〇〇
三、〇七二	一、三〇四	一、二六六	三、二〇五	一、七九九	三、五三七
八、六一	三、六八	三、七	九、〇五	五、〇八	一〇〇、〇〇
加美郡、遠田郡、志田郡、玉造郡	栗原郡、登米郡ノ一部	登米郡、本吉郡ノ一部	石巻市、牡鹿郡、桃生郡	本吉郡	
大正十五年	昭和三年一月	同 前	昭和七年	大正十五年四月、昭和四年二月火災ニヨリ消滅	昭和九年再開

三 細菌検査月別

月別検査件数ニ於テハ、昭和十年ニハ特ニ四月、七月、八月、十二月ニ多ク、十一年ニハ五月、十月等ニ多カリシガ、之ハ夫々特殊業態者並ニ一般的保菌者検索等ノ臨時的検査ヲ施行セル結果増加ヲ示セルモノナリ。(次表参照)

細菌検査件数月別表

月 別	昭和十年		昭和十一年	
	検査件数	同 上 %	検査件数	同 上 %
一 月	三、二七七	六・〇七	一、九一一	五・三九
二 月	三、六〇六	六・六八	一、七〇三	四・八一
三 月	三、五四〇	六・五六	二、二一〇	六・二四
四 月	五、四七二	一〇・一四	二、六一九	七・三九

四 細菌検査目的別

検査目的別ニ於テハ昭和十年、十一年共法定傳染病ニ係ルモノノ大部分ニシテ検査總數ノ九五―九八%ヲ占ム。法定傳染病以外ノモノハ結核菌、「ワツセルマン」反應検査等ナリ。而シテ法定傳染病中「チフス」ニ關スル検査最モ多ク、尿、尿、「ウイダール」反應、血液培養等ニ涉リ全數ノ九五―九七%ヲ占ム。其ノ他赤痢、「ヂフテリア」、流行性腦脊髄膜炎菌等ノ検査アルモ比較的少數ナリ。(次表参照)

五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	計
二、五三〇	二、九四〇	七、一八六	八、一〇三	三、五三一	三、六六六	四、六六七	五、四三一
四、六九	五、四五	一、三三二	一、五〇二	六、五五	六、八〇	八、六五	一〇、〇七
三、九一六	二、七二五	二、九八二	三、一四一	三、五二〇	四、〇八〇	三、一四五	三、四八五
一、一〇五	七、六九	八、四二	八、八六	九、九三	一、一五一	八、八七	九、八四
一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

細菌検査目的別検査件数表

検査目的別	昭和十年		昭和十一年	
	検査件数	同 上 %	検査件数	同 上 %
計	五、四三一	一〇〇、〇〇	三、四八五	一〇〇、〇〇

合 計	法 定 傳 染 病			
	チフス菌(腸チフス) ウイゲール反應	赤 痢 菌	ジフテリア菌	流行性腦脊髄膜炎菌 チフス、赤痢菌、其ノ他
五三、九四九	四九、六六一	一、六三三	一三九	五一、五五三
一〇〇、〇〇〇	九二、一一一	三、〇三三	〇、二六六	九五、五六六
三五、四三七	三三、〇三八	一、四七四	三五四	三四、九六一
一〇〇、〇〇〇	九三、二二三	四、一六六	一、〇〇〇	九八、六六六
			〇、〇〇四	〇、〇一一
			〇、〇〇七	〇、〇〇九
			〇、〇二六	〇、〇二九
			〇、二八八	〇、二八八
			一、五五六	一、五五六
			二、二八八	二、二八八
			一、五五四	一、五五四
			二、三九六	二、三九六
			八四二	八四二
			一、五五六	一、五五六
			一、五五四	一、五五四
			二、三九六	二、三九六
			四、四四四	四、四四四
			三、〇二二	三、〇二二
			一、七五四	一、七五四
			四、七六六	四、七六六
			三、〇二二	三、〇二二
			一、三九七	一、三九七
			一、〇五七	一、〇五七
			一、三九七	一、三九七
			二、〇、五八四	二、〇、五八四
			一、一、〇五七	一、一、〇五七
			一、三九七	一、三九七
			三、三、〇三八(十一年)	三、三、〇三八(十一年)
			四九、六九一(十年)	四九、六九一(十年)
			一六、七〇五	一六、七〇五
			一、五六〇	一、五六〇
			三、一、四二六	三、一、四二六
			一六、七〇五	一六、七〇五
			一、五六〇	一、五六〇

備考

チフス菌検査材料内訳

尿 三一、四二六
尿 一六、七〇五
血液 一、五六〇

尿 二〇、五八四
尿 一一、〇五七
血液 一、三九七

五 細菌検査材料別

検査材料別ニ於テハ、尿最も多ク昭和十一年總數ノ五八%餘、十一年五九%餘ノ大半ヲ占メ、次デ尿兩年共約三一%ニシテ尿尿双者ニテ總數ノ約九〇%ヲ占ム。其ノ他ハ血液ノ八%餘ヲ稍多シトスル外、發泡液、咽頭粘液、脊髄液、喀痰、「アイスクリム」等アルモ少数ナリ。(次表参照)

「アイスクリム」等アルモ少数ナリ。(次表参照)

細菌検査材料別検査件數表

検査材料別	昭和十年		昭和十一年	
	検査件數	同 上 %	検査件數	同 上 %
尿	三一、五六五	五八・五一	二〇、九三八	五九・〇九
血液	一六、七〇五	三〇・九七	一一、〇五七	三一・二一
發泡液	四、六三七	八・六〇	二、九七五	八・四〇
咽頭粘液	一一〇	〇・二〇	七〇	〇・二一
脊髄液	八八	〇・一六	五一	〇・一四
脊液	二	△	四	〇・〇二
喀痰	八四二	一・五六	三〇二	〇・八五
アイスクリム	二	△	三	〇・〇七
吐物、魚	一	△	二	〇・〇一
計	五三、九四九	一〇〇・〇〇	三五、四三七	一〇〇・〇〇

備考

一、血液中ニハ膽汁培養基昭和十年四一六、十一年八五ヲ含ム
二、△印ハ%單位未滿ヲ示ス

六 細菌検査成績細別

以上ノ検査成績ヲ細分シ、其ノ陽性率ヲ觀ルニ次表ノ通りナリ。

即チ昭和十、十一兩年ノ成績ニ於テ「ウイダール」反應ニ於テハ血液ニ於テ陽性四六―五三%、發泡液三九―四五%ニシテ血液ニ於テ若干陽性率高ク、右血液ノ菌培養陽性率ハ一八―二三%ナリ。
 「チフス」菌培養ノ尿検査ニ於テハ、保菌者ノ三〇―三二%陽性ヲ最高トシ、次デ主要症狀消退患者九―一〇%、不審患者七―九%ヲ比較的高率トシ、他ノ保菌者検査ノ爲ニスル検査ニ於テハ低率ナリ。即チ全治轉歸者全治後一ケ年間ノ檢便ニ於テハ〇・二二―〇・二二%、患者發生時ノ患家々族、井戸便所共用者、交通關係者等ニアリテハ〇・一九―〇・二二%、特殊業態者〇・〇二% (昭和十一年陽性ナシ)、一般的保菌者検査〇・〇五―〇・一〇%等ナリ。
 尿ノ検査ニ於テハ、概シテ尿ヨリモ低率ニシテ保菌者三―七%、主要症狀消退患者七―九%、全治轉歸者〇・〇二―〇・二二%、發生時ノ附近檢索〇・〇二―〇・〇三%ノ陽性率ニシテ、特殊業態者、一般的保菌者検査等ハ陽性皆無ナリ。
 赤痢菌ノ検査ニ於テハ、昭和十年一三%、十一年五%弱ニシテ、「チフテリア」菌ハ十年八%弱、十一年一七%、流行性腦脊髄膜炎菌ハ昭和十一年脊髄液ニ於テ五〇%ノ陽性率ヲ示セルガ、之等ハ検査數尠キ爲各年著シキ相違アリテ統計的觀察ノ價値ニ乏シ。

法定傳染病以外ノ檢索ニ於テハ喀痰ニヨル結核菌陽性昭和十年二%弱、十一年七%弱ニシテ「ワツセルマン」反應ハ十年約三七%、十一年二四%餘ノ陽性率ナリ。(詳細次表參照)

細菌検査成績細別表

検査目的及検査材料別	昭和十年		昭和十一年	
	検査件数	陽性数	検査件数	陽性数
ウイダール反應	1,533	876	1,004	677
血液	110	49	70	27
發泡液	(1)	(1)	(3)	(12)
同上%	55.9	52.9	67.3	66.8
同上%	44.9	44.5	30.0	38.5

検査目的及検査材料別	昭和十年		昭和十一年	
	検査件数	陽性数	検査件数	陽性数
チフス菌培養	1,635	86	1,774	674
計	(12)		(15)	
同上%	5.2	5.4	3.8	3.8
血液	1,477	55	1,311	211
胆汁培養	118	10	85	18
計	(11)	(9)	(15)	(13)
同上%	42.4	14.0	39.9	21.2
同上%	33.0	33.6	39.7	18.4
チフス菌培養 (尿)	3,477	309	2,438	233
主要症狀消退後ノ患者	(4)		(37)	
保菌者	1,313	10	1,524	453
全治轉歸者	767	9	568	11
患家々族、井戸便所共用其ノ他交通關係者	9,474	18	7,215	15
特殊業態者	5,618	1	704	1
計	(3)	(1)	(1)	
同上%	0.19	0.11	0.11	0.11
一般的保菌者検査	3,785	2	2,956	3
不審患者	74	7	59	4
計	(55)	(1)	(39)	(1)
同上%	0.18	0.01	0.08	0.10
チフス菌培養 (尿)	3,338	299	2,298	158
主要症狀消退後ノ患者	(2)		(7)	
保菌者	815	55	311	11
全治轉歸者	4,165	1	3,336	4
患家々族、井戸便所共用其ノ他交通關係者	4,447	1	3,823	1
特殊業態者	0.0	1	318	1
計	(2)	(1)	(7)	(1)
同上%	0.00	0.01	0.08	0.00
同上%	0.00	0.01	0.08	0.00

總計	合計	ワツセルマ 反應	結核菌	チフス、赤痢菌 其他	赤痢菌(尿)	チフテリア菌	流行性 脊髄膜炎	一般的保菌者檢索	
								不審患者	計
五三、九四九	二、三九六	一、五五四	八四二	五、五五三	一三九	四〇	四八	七四五	一、七〇三
二、九七八	五八六	五七三	一五	二、三九三	一八	三	三	三三	(2)
五〇、五五三	二四、四六六	三六、八七	一、五五四	四、六四	二、九五	七、五〇	一〇	二〇	二、一三
三五、四三七	四七六	一七四	三〇一	三、九六一	三、五	五	一〇	九三〇	一一、〇三
一、九〇六	六二	四二	一〇	一、八四四	一六	七	一	二	(7)
五〇、三八	一三、〇三	二四、一四	六、六一	五、二七	四、三二	一、〇〇	一、二九	一〇、〇〇	一、七六

「附」 細菌檢査所ニ於ケル「ワクチン」其ノ他ノ製造

大正五年縣衛生課ニ細菌檢査所創設セラレ、ヤ、細菌檢査ト共ニ腸「チフス」加熱「ワクチン」並膽汁培養基ノ製造配布ヲ行ヒツ、來リシガ、大正六年ヨリ加熱「ワクチン」ヲ感作「ワクチン」ニ改メ、爾來昭和八年迄繼續セルガ、昭和九年ヨリ再ビ加熱「ワクチン」ニ改メ今日ニ至レルガ、昭和五年ヨリ腸「チフス」豫防内服錠「エンテロワクチン」ノ製造ヲ開始シ繼續シツ、アリ。最近五ケ年間ニ於ケル製造數量左ノ如シ。

最近五ケ年間「ワクチン」其ノ他製造量調

年次	種別	腸「チフス」豫防注射ワクチン	同 内服ワクチン	膽汁培養基
昭和七年		一八九、五〇〇	三〇、二六一	八〇七
同 八年		一九六、八四〇	四五、二〇〇	四〇〇
同 九年		二七八、四〇〇	二五、五九五	三一六
同 十年		三〇八、八二〇	三三、七〇〇	一三〇
同 十一年		二九四、三四〇	二六、二四〇	四一八
平均		二五三、五八〇	三二、一九九	四一四

備考 豫防注射「ワクチン」ハ昭和八年以前ハ感作「ワクチン」、九年以後ハ加熱「ワクチン」トス

第九 早期發見 檢病調査

腸「チフス」患者ノ發見別ニ就テハ第一節第二ノ七ニ説述シタル處ナルモ、患者ノ早期發見ニヨリ病毒傳播ノ機會ヲ減少セシムルハ早期診斷ト相俟ツテ極メテ肝要ナル所ニシテ、患者發生時、流行時等ニ於テ檢病的戸口調査ノ結果不審患者ヲ發見シ

診定スルニ至リタルモノ最近十ヶ年間ニ一ヶ年平均四〇二名ヲ算シ、患者總數ノ三〇%餘ニ該當ス。其ノ外早期發見ノ方法トシテ投書、密告等ニ依レルモノ極メテ僅少ニ過ギザレドモ若干アリ。(第一節第二ノ七(一二五頁)參照)

第十 早期診斷(細菌學的診斷)

患者ノ早期診斷ヲ期スルニハ勢ヒ細菌學的検査ニ俟ツ所大ナリ。

其ノ第一ハ「ウイダール」反應検査ニシテ、患者ノ臨床所見ト相俟チテ診斷ノ資料トナス利用性ヲ擴大シツ、アリ。昭和十年ニハ血液ニ依ルモノ一、五二三件、發泡液ニ依ルモノ一〇〇件、計一、六三三件ノ検査ヲ行ヒ、同十一年ニハ血液一、四〇四件、發泡液七〇件、計一、四七四件ノ検査ヲ行ヒタルガ、其ノ内昭和十年ハ計八五六件(五二%餘)十一年ハ計六七四件(約四六%)ノ陽性(十二〇〇倍以上)ヲ見、之等ハ概ネ醫師ノ臨床所見ト相俟チテ診定ヲ見タル所ナリ。

更ニ「ウイダール」反應検査後膽汁加培養ヲ行ヒ菌檢出ノ方法ヲ爲シ一層検査ノ的確ヲ期シツ、アリ。又一方不審患者ノ血液採取ニ當リテハ、豫メ各警察署ヲ通ジ開業醫師ニ採血管及膽汁培養基ノ無償交付ヲ行ヒ居ルモ、膽汁培養基ハ比較的利用數尠ク、今後一層利用ヲ奨勵シ以テ早期診斷ニ資スル要アリ。(第二節第八ノ六表參照)

第十一 病原體保有者ノ檢索

病後保菌者ノ檢索ニ就テハ、傳染病豫防法施行細則(縣令)第四條ノ規定ニ依リ入院、入舎患者ノ主要症狀消退一週間後ヨリ退院、退舎時迄屢尿検査ヲ行フノ外、全治轉歸者ニ就テハ同豫防法施行手續(縣訓令)第五條第二項ノ規定ニ依リ、轉歸後六ヶ月間ハ毎月二回、爾後六ヶ月間ハ毎月一回ノ割合ヲ以テ合計一ヶ年間十八回繼續的尿尿検査ヲ行ヒ居ルモ、昭和十年ニハ主要症狀消退患者ノ検査數、尿延三、四七七件、尿延三、三二八件、計延六、八〇五件ニシテ全治轉歸者ハ尿延七、六七五件、尿延四、二六五件、計延一一、九四〇件ナリ。昭和十一年ニハ主要症狀消退患者尿尿双方ニテ延四、七三六件、全治轉歸者尿尿併セテ延九、〇三四件ナリ。

一方健康保菌者ノ檢索ニ就テハ、患者發生時ニ於テ患者家族及附近ニ於ケル井戸、便所ノ共用者、交通關係者、更ニ流行狀況ニ依リ全部落等ニ迄檢索範圍ヲ擴大シ檢尿尿ヲ施行スルヲ始メトシ、飲食物營業者、殊ニ氷、牡蠣等ノ從業者、其ノ他看護婦、水道従事員等ノ特殊業態者ノ檢便並ニ臨時的ニ既往流行地域ノ一齊檢便等ヲ行ヒ居ルモ、昭和十年ニ於テハ其ノ總數尿尿併セテ二七、一三九件、十一年ニハ約二〇、〇〇〇件ナリ。(詳細第二節第八ノ六表參照)

以上各種ノ檢索ニ依リ發見セル保菌者ハ、昭和十年腸「チフス」七一一名(内病後五六名、健康一五名)、「バラチフス」健康三名、計七四名ニシテ、十一年ニハ腸「チフス」六二名(内病後四二名、健康二〇名)、「バラチフス」六名(内病後五名、健康一名)、赤痢五名(内病後一名、健康四名)計七三名ヲ算シ、従前ノ各年ニ比シ若干増加ノ傾向ニアリ。(第一節第五ノ一參照)

第十二 病原體保有者ノ取締

最近十ヶ年間ニ於ケル患者ノ傳染經路中保菌者トノ關係ニ因ルモノト認メラル、モノハ僅カニ判明總數ノ一・五七%(第一節第二ノ六表)ニ過ギザルモ、實際ニ於テハ直接間接ニ猶多數ノ潜在的關係ヲ有スルモノト思料セラル。保菌者ノ取締ニ就テハ猶徹底ヲ欠クノ憾アリテ、概ネ所定ノ消毒、其ノ他ノ事項ヲ遵守スルモノ尠キハ遺憾トスル所ナリ。檢便ノ如キモ昭和十年ニハ尿一、三二三件、尿八一五件、計二、一三八件、昭和十一年ニハ尿一、五二四件、尿三二二件、計一、八四六件ニシテ所定ノ回數ニ達セザルコト遠キモノアリ。(第二節第八ノ六表參照)

第十三 便所ノ改良及下水道

便所ノ改良ニ就テハ、水槽便所並ニ内務省式改良便所ノ築造奨勵ヲ爲シツ、アルモ、前者ハ殆ド仙臺市内ノ都會地ニ限ラレ下水道モ亦同然ナリ。内務省式改良便所ハ農村地方ニ普及シツ、アリ。寄生蟲病豫防ノ目的ト相俟チテ今後益々普及ヲ圖ラントスルモノナリ。(詳細第二章第五節(四七頁)參照)

第十四 上水道及井戸改善

上水道ニ就テハ、消化器系傳染病豫防ノ見地ヨリ特ニ傳染病豫防法施行細則中ニ市町村ニ於ケル水道布設若クハ其ノ改修工事ニ對スル補助規程ヲ設ケ獎勵シツ、アリ。縣下上水道ノ布設狀況ハ別項(第二章第一節ノ二(二六頁)ノ如シ。

飲料井戸ニ就テハ、大正十年一月縣令第一號ヲ以テ「傳染病豫防ノ爲飲料井戸改善ニ關スル件」ヲ制定シ、構造設備不良ノ飲料井戸改善ヲ計リ來リタルモ容易ニ成績擧ラザル状態ニテ、腸「チフス」豫防指定市町村ニ對シテハ特ニ改善方ヲ督勵シ居ルモ、相當經費ヲ伴フト、因襲ノ久シキ爲意ノ如クナラズ、昭和九年及十年ニ於ケル豫防指定市町村ニ市九十二ヶ町村ニ就キ調査セル構造調査表ノ通りニシテ、構造不完全ナルモノ猶總數ノ四八%餘ヲ占ムル狀況ニシテ、殊ニ共用井戸多ク改善ノ餘地大ナリ。

昭和九年及昭和十年 腸「チフス」豫防指定市町村飲料井戸構造調査表

構造完全、不完全別%	構造不完全類別%		共 計	共 計	共 計	飲料井戸		構造完全ナルモノ		構造不完全ナルモノ		其ノ他	計		
	專用	共用				總數	構造完全ナルモノ	構造不完全ナルモノ	井側ノ不 完全ナル 車井戸	井側ノ不 完全ナル 釣瓶井戸	井側ノ不 完全ナル 釣瓶井戸			井側ノ不 完全ナル 蓋ナキ 井戸	井側ノ不 完全ナル 蓋ナキ 井戸
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	八、三六一	三、九六八	二、八〇〇	一、二七〇	一、一三〇	一、一三〇	九三三	一、九〇	八八	四、三九五
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	三、八四三	一、三三三	一、〇九六	一、〇九六	二、四三三	二、四三三	二、四三三	六八六	一、一〇	一〇、七一一
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	三、一七三	一、〇九〇	七、七六	一、三九	三、六三三	四、〇八〇	三、三六八	九三七	六一一	一、七〇三
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	五、一四	九三三	一、二〇一	一、一三〇	六、一〇	六、一〇	六、一〇	一、九〇	一、七	一〇、〇〇
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	五、一四	九三三	一、二〇一	一、一三〇	六、一〇	六、一〇	六、一〇	一、九〇	一、七	一〇、〇〇
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	五、一四	九三三	一、二〇一	一、一三〇	六、一〇	六、一〇	六、一〇	一、九〇	一、七	一〇、〇〇
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	五、一四	九三三	一、二〇一	一、一三〇	六、一〇	六、一〇	六、一〇	一、九〇	一、七	一〇、〇〇

備考 本表ハ昭和九年分二市六五ヶ町村、昭和十年分二七ヶ町村(前年ヨリ續ケテ指定トナリ前年ニ於テ調査ノ分ヲ除ク)計二市九二ヶ町村ニ就キテ調査セルモノナリ

第十五 清潔方法及蠅族驅除

春秋二期ノ定期及夏季ノ臨時清潔法ハ一般ニ勵行セラレツ、アリ。蠅族ノ發生防止ニ就テハ本縣衛生會製造ニ係ル四盤化炭素製劑「エムエス原液」ヲ使用シ漸次普及シツ、アリ。

尙蠅族驅除ニ就テハ、小學校其ノ他ニ於ケル「蠅捕デー」ノ催シニ依リ、殺蠅ノ實益ト共ニ一般蠅觀念ノ啓蒙ニ努メ、其ノ他衛生組合等ヲ通ジ蠅取紙、蠅タタキ類ノ共同購入ヲ行ヒツ、アリ。

第十六 媒介飲食物ノ取締

「チフス」其ノ他ノ消化器系傳染病媒介ノ飲食物ニ就テハ、夫々取締改善ヲ加ヘツ、アルモ特ニ本縣特産ニ係ル牡蠣、野菜等ニ就テハ其ノ徹底ヲ期シツ、アリ。(第二章第四節(四五頁)參照)

又飲料氷營業者、従業員等ノ保菌者檢査ヲ行ヒ居ルコトハ既ニ説述シタル所ナルモ、更ニ近年「アイスクリーム」「アイスキャンデー」其ノ他飲食用氷製品ノ販賣多キニ鑑ミ當業者ノ健康診斷、保菌檢査、製造所ノ視察等ヲ行ヒ居リ、又昭和十二年ヨリ市街地ノ宿屋、飲食店、料理店、其ノ他類似ノ從業者ニ就キ檢便施行ノ計畫ヲ樹テ目下實施中ナリ。

第三節 狂犬病豫防

本事務ハ昭和元年度ニ内務部ヨリ警察部ニ移管セラレタルガ、中央ニ於テハ昭和四年度ヨリ犬ノ狂犬病豫防ニ關スル事務ハ農林省ヨリ内務省ニ移管セラレタリ。本縣ニ於ケル本病ノ發生ハ明治四十二、三年ニシテ其後發生ナカリシガ、大正八年ヨリ年々多少ノ發生ヲ見タルモ昭和五年以降發生セズ。

本病豫防ニ付テハ左記要件ノモトニ夫々計畫實施セリ。

- 一、畜犬整理ニ付テハ明治三十四年二月制定ノ畜犬取締規則ヲ大正十四年六月改正シ畜犬ニハ全部畜犬票ヲ懸吊セシメ更ニ昭和三年一月其ノ一部ヲ改正シ畜犬票ノ再下附ヲ容易ニセリ。
- 二、狂犬病豫防注射ハ大正十四年縣下ニ於テ陸軍特別大演習ノ際全縣下ニ施行以來本病發生地其ノ附近町村及市街地並遊覽地ノ畜犬ニ注射セシガ昭和七年以降直接實施セズ畜主ヲシテ自衛的ニ施行スル様勸奨シツ、アリ。
- 三、野犬掃蕩ニ付テハ例年冬期間各警察署長ヲシテ施行セシメシガ昭和二年農林省主唱全國一齊狂犬病豫防週間ヲ實施セルヲ繼續シテ縣下一齊ニ實施セシガ同十年以降施行セズ單ニ掃蕩ノミヲ行ヒツ、アリ。

狂犬病豫防週間及野犬整理實施成績表

施行年度別	大 犬					小 犬		計	畜犬現在數	備 考
	買 上	捕 獲	藥 殺	其ノ他	計	新 規 出 合	計			
昭和二年	八六九	三三四	八七〇	—	二、〇三三	一、九一四	三、九七七	一七、〇七七	豫防週間實施	
同 三 年	八八二	五二〇	六二六	—	二、〇二八	一、三七六	三、三九四	一六、六〇七	同	
同 四 年	八〇八	六三二	五五一	一七三	二、一五二	九七五	三、一三七	一四、〇〇五	同	
同 五 年	六七	六〇三	五六七	一〇五	二、〇〇〇	五六九	二、五六九	一一、四四六	同	
同 六 年	—	一七九	一八二	三三	五八五	四二八	一、〇一一	九、五七九	同	
同 七 年	三三二	二七〇	三四六	一五八	一、一六六	四七一	一、五九七	八、八九九	同	
同 八 年	三二九	四二四	二九四	一四九	一、一七六	五七二	一、七四八	八、三二二	同	
同 九 年	二四五	四〇八	三三九	一一	一、〇〇三	五五六	一、六五九	七、七七七	同	
同 十 年	—	四二九	—	—	四二九	—	四二九	七、五一一	野犬整理實施	
同 十 一 年	—	七六八	—	—	七六八	—	七六八	六、六五五	同	

第五章 醫 務 衛 生

第五章 醫務衛生

第一節 醫療並療屬機關

第一 醫師、齒科醫師及診療所分布狀況

醫師ノ分布狀況ヲ觀ルニ、都會ニ集中シ村落ニ至ルニ從ヒテ稀薄トナル傾向ヲ有シ、都鄙甚ダ不均衡ノ狀態ニ在リ。醫師一人ニ對スル人口ノ割合ニ於テハ仙臺市ノ三二〇人（同市ニハ東北帝大醫學部附屬醫院始メ各種ノ大病院多キ爲メ特ニ醫師ノ集結多シ）石卷市ノ五四四人等ニ比シ郡部ニ於テハ概ネ二、〇〇〇名内外ノ割合ニテ其ノ差著シク、殊ニ牡鹿郡ノ如キハ二、八〇〇餘人ニ當リ最モ分布稀薄ナリ。而シテ診療所數ハ昭和十一年末縣下總數五九三ヶ所中仙臺市内ノモノ一五九ヶ所ニ及ビ、總數ノ四分一以上ヲ占メ、然モ病院組織ノモノ官公私立ヲ併セ三八ヶ所ニ及ブ狀況ナリ。

又縣下二市二〇〇ヶ町村中開業醫師ノナキ所謂無醫村ハ總數六六ヶ村ニシテ總町村數ノ約三分ノ一ニ及ブモ、此等無醫村ニ對シテハ出張診療、巡回診療等ヲ行ヒ可及的醫療施設ノ擴充ニ努メ居ル狀況ナリ。

齒科醫師並診療所ノ分布狀況モ同様都會偏集ノ傾向多ク、村落ニ開業スルモノ極メテ尠シ。然レドモ最近八年々一〇〇名内外ノ醫師、齒科醫師ノ増加ヲ見ツ、アリ。（次表參照）

(イ) 郡市別醫師分布表

(昭和十一年末現在)

郡市別	種別		官公立(指 定)學校 卒業	私立(指 定)學校 卒業	外國學校 卒業	試驗及第	奉職履歷	從來開業	限地開業	合計	醫師一人 ニ對スル 人口	醫師ナキ 町村
	大學卒業	醫學專門										
仙臺市	四七三	(13)	二五九	一	一	一	三	二	一	七四八	三二〇	一
石卷市	二六	(3)	三	一	一	一	一	二	一	七〇	五四四	一
合計												

郡市別	種別		病院		診療所		計
	官立	醫師公共團體	醫師開設ノ公共團體	醫師開設ノ公共團體以外	醫師開設ノ公共團體	醫師開設ノ公共團體以外	
登米郡	1	2	3	3	1	3	38
栗原郡	1	1	3	3	1	3	50
遠田郡	1	1	2	2	1	2	33
玉造郡	1	6	1	1	1	2	17
志田郡	1	1	1	1	1	2	26
加美郡	1	1	1	1	1	2	14
黒川郡	1	2	1	1	1	2	11
宮城郡	1	2	1	1	1	2	14
名取郡	1	1	1	1	1	2	14
亘理郡	1	1	1	1	1	2	15
伊具郡	1	1	1	1	1	2	17
柴田郡	1	1	1	1	1	2	20
刈田郡	1	2	1	1	1	2	18
石巻市	1	3	1	1	1	2	30
仙台市	3	6	1	3	1	2	159

(口) 郡市別診療所分布表

(昭和十一年末現在)

備考 () 内ハ女醫數ノ再掲トス

郡市別	種別		病院		診療所		計
	官立	醫師公共團體	醫師開設ノ公共團體	醫師開設ノ公共團體以外	醫師開設ノ公共團體	醫師開設ノ公共團體以外	
本吉郡	6	24	1	1	1	1	66
牡鹿郡	1	2	1	1	1	1	5
桃生郡	8	1	1	1	1	1	11
登米郡	20	1	1	1	1	1	23
栗原郡	25	1	1	1	1	1	28
遠田郡	9	1	1	1	1	1	12
玉造郡	1	1	1	1	1	1	4
志田郡	2	1	1	1	1	1	5
加美郡	4	1	1	1	1	1	7
黒川郡	5	1	1	1	1	1	8
宮城郡	5	1	1	1	1	1	8
名取郡	5	1	1	1	1	1	8
亘理郡	5	1	1	1	1	1	8
伊具郡	2	1	1	1	1	1	5
柴田郡	3	1	1	1	1	1	6
刈田郡	7	1	1	1	1	1	10
石巻市	9	1	1	1	1	1	12
仙台市	24	2	1	2	1	1	28

本計	牡鹿郡	桃生郡	備考
三	一	一	
三	七	一	
八	一	一	
五	一	一	
四	三	元	元
七	一	一	
三	一	一	
五	三	元	元

備考
病院數中
▽官立ハ大學、鐵道、逓信ノ三病院
▽公共團體ハ縣立一、仙臺市立三、石卷市立(傳染病院)一、刈田、登米、氣仙沼ノ三公立病院
▽醫師以外設立ハ仙臺市内日赤、向山療養所、片倉製糸場病院ノ三及石巻日赤、古川町片倉病院ノ五病院ナリ(詳細次表參照)

(ハ) 縣下病院一覽表 (昭和十二年八月末現在)

設立者別	郡市別	名稱	所在地	診療科名	收容員數	備考
官立	仙臺市	東北帝國大學醫學部附屬醫院	北四番丁	内、外、眼、産、婦人、耳鼻咽喉、齒、精神、小兒、傳染病、其ノ他	六七九	
官立	仙臺市	仙臺鐵道病院	東三番丁	内、外、眼、耳鼻咽喉、齒、産、婦人	一二〇	
官立	仙臺市	仙臺逓信診療所	東二番丁	内、外、眼、耳鼻咽喉、齒、レントゲン	三〇	
公立	小田原	小田原病院	北三番丁通	婦人科	二九	宮城縣立
公立	仙臺市	仙臺市立病院	東二番丁	内、外、眼、小兒、耳鼻咽喉、産、婦人、レントゲン、物療	一二〇	仙臺市立
公立	仙臺市	市立榴ヶ岡傳染病院	東十番丁	傳染病	一〇四	仙臺市立傳染病院
公立	仙臺市	仙臺市立西多賀病院	鉤取字紅堂	結核	五〇	仙臺市立結核療養所
公立	刈田郡	公立刈田病院	白石町	内、外、小兒、産、婦人、眼、耳鼻咽喉	四〇	白石町外九ヶ村組合立
公立	登米郡	公立登米病院	登米町	内、外、産、婦人、耳鼻咽喉、眼	六〇	登米町立
公立	本吉郡	氣仙沼町組合病院	氣仙沼町	内、外、眼、小兒、産、婦人、耳鼻咽喉、性病、レントゲン	一四一	組合立 内傳染病患者收容定員 二四
特殊團體立	仙臺市	宮城支診療所 財團向山療養所 法人向山療養所 私立片倉病院	北一番丁 向山 東八番丁	内、外、小兒 結核 内、小兒、外、眼	二〇 九七 二七	結核療養所 片倉製糸工場内
團體立	石巻市	宮城支診療所 日赤十字社 宮城支診療所	湊御所入	内、外、産、婦人、小兒、耳鼻咽喉、眼、皮膚、泌尿生殖器病	二三〇	傳染病室 一七
私立	仙臺市	橋本病院 新津内科小兒科醫院 廣畔病院 佐藤内科病院 猪苗代病院 小塚内科病院 柳橋内科病院 高柳病院 内科萱場診療所	東一番丁九〇 北一番丁一一五 米ヶ袋十二軒丁五 北四番丁一一九 河原町六九 東二番丁一一五 本荒町三 堰場二 東三番丁四四	内、小兒、齒、口腔外科 内、小兒 内、科 同 内、外、小兒、皮膚、性病、レントゲン、齒 内、レントゲン 内科 同 同	一五 一五 一〇 二五 五六 二〇 一二 二九 一三	内傳染病患者收容定員 一四 内傳染病患者收容定員 八

設立者別	郡市別	名稱	所在地	診療科名	收容員數	備考
官立	仙臺市	東北帝國大學醫學部附屬醫院	北四番丁	内、外、眼、産、婦人、耳鼻咽喉、齒、精神、小兒、傳染病、其ノ他	六七九	
官立	仙臺市	仙臺鐵道病院	東三番丁	内、外、眼、耳鼻咽喉、齒、産、婦人	一二〇	
官立	仙臺市	仙臺逓信診療所	東二番丁	内、外、眼、耳鼻咽喉、齒、レントゲン	三〇	
公立	小田原	小田原病院	北三番丁通	婦人科	二九	宮城縣立
公立	仙臺市	仙臺市立病院	東二番丁	内、外、眼、小兒、耳鼻咽喉、産、婦人、レントゲン、物療	一二〇	仙臺市立
公立	仙臺市	市立榴ヶ岡傳染病院	東十番丁	傳染病	一〇四	仙臺市立傳染病院
公立	仙臺市	仙臺市立西多賀病院	鉤取字紅堂	結核	五〇	仙臺市立結核療養所
公立	刈田郡	公立刈田病院	白石町	内、外、小兒、産、婦人、眼、耳鼻咽喉	四〇	白石町外九ヶ村組合立
公立	登米郡	公立登米病院	登米町	内、外、産、婦人、耳鼻咽喉、眼	六〇	登米町立
公立	本吉郡	氣仙沼町組合病院	氣仙沼町	内、外、眼、小兒、産、婦人、耳鼻咽喉、性病、レントゲン	一四一	組合立 内傳染病患者收容定員 二四
特殊團體立	仙臺市	宮城支診療所 財團向山療養所 法人向山療養所 私立片倉病院	北一番丁 向山 東八番丁	内、外、小兒 結核 内、小兒、外、眼	二〇 九七 二七	結核療養所 片倉製糸工場内
團體立	石巻市	宮城支診療所 日赤十字社 宮城支診療所	湊御所入	内、外、産、婦人、小兒、耳鼻咽喉、眼、皮膚、泌尿生殖器病	二三〇	傳染病室 一七
私立	仙臺市	橋本病院 新津内科小兒科醫院 廣畔病院 佐藤内科病院 猪苗代病院 小塚内科病院 柳橋内科病院 高柳病院 内科萱場診療所	東一番丁九〇 北一番丁一一五 米ヶ袋十二軒丁五 北四番丁一一九 河原町六九 東二番丁一一五 本荒町三 堰場二 東三番丁四四	内、小兒、齒、口腔外科 内、小兒 内、科 同 内、外、小兒、皮膚、性病、レントゲン、齒 内、レントゲン 内科 同 同	一五 一五 一〇 二五 五六 二〇 一二 二九 一三	内傳染病患者收容定員 一四 内傳染病患者收容定員 八

立				市														
名取郡	伊具郡	刈田郡	柴田郡	石巻市														
名取療養院	安達病院	産科婦人科朝倉病院 内科小兒科加藤病院	小島眼科病院	産科婦人科姉齒病院	小室眼科病院	佐藤眼科病院	眼科田中病院	外科上石病院	佐藤眼科病院	外科和賀井病院	小兒科堺病院	富永内科病院	内科山内病院	日野野病院	内科菊地病院			
中田村	櫻村	白石町	大河原町	本町四二	立町一〇二	同四七	本町四六	鑄錢場四七ノ一	同三五	同三八	同七六	本町一五	横丁一三	住吉町七四	仲町一七			
内、精神病	内、外、産、婦人、レントゲン	内、産、婦人 内、小兒	眼科	産、婦人	同	同	眼科	外、花柳病	外、耳鼻咽喉	外科	内科、小兒科	同	同	同	内科			
六五	一〇	二〇 一三	一七	二五	二四	一七	一六	一四	二七	一四	一三	一五	一二	一一	一一			

私																		
市					臺					仙								
東北脳病院	薄場病院	引地産科婦人科病院	久家産科婦人科病院	秋元産科婦人科病院	和田産科婦人科病院	河西耳鼻咽喉科病院	三好耳鼻咽喉科病院	今井眼科病院	阿部眼科病院	大橋眼科病院	外科今野病院	安田外科病院	大關外科醫院	外科岩本病院	遠藤眼科病院	横山眼科病院	青葉眼科病院	龜井川胃腸病院
北七番丁九七	元貞坂丁一	東四番丁三五	同	東三番丁一五一	石名坂四五	同	東三番丁一一一	東四番丁二七	東二番丁八四	東三番丁一四〇	南鍛冶町一九六	國分町一二八	北一番丁六一	元寺小路一四六	東二番丁五五	南光院丁一五	東四番丁四〇	空堀丁三九
脳病、精神病	皮膚、泌尿、生殖器、肛門、レントゲン	同	同	同	産科、婦人科	同	耳鼻咽喉科	同	同	眼科	外科	外、レントゲン	同	外科	内、外、婦人、肛門病、小兒、皮膚、泌尿、レントゲン	内科	内、小兒、レントゲン	胃腸病科
一一七	一四	一五	二七	一五	一四	二一	一八	一八	二四	一一	一八	一七	一一	五二	二四	一九	一〇	一〇

内傳染病患者收容定員
五

刈石仙	郡市別	種別	齒科醫師
田卷臺	郡市別	種別	齒科醫師
郡市市	郡市別	種別	齒科醫師
	郡市別	種別	齒科醫師
八 一六 九八	郡市別	種別	齒科醫師
亘伊柴	郡市別	種別	齒科醫師
理具田	郡市別	種別	齒科醫師
郡郡郡	郡市別	種別	齒科醫師
	郡市別	種別	齒科醫師
三 五 六	郡市別	種別	齒科醫師
黒宮名	郡市別	種別	齒科醫師
川城取	郡市別	種別	齒科醫師
郡郡郡	郡市別	種別	齒科醫師
	郡市別	種別	齒科醫師
四 一 二 四	郡市別	種別	齒科醫師
玉志加	郡市別	種別	齒科醫師
造田美	郡市別	種別	齒科醫師
郡郡郡	郡市別	種別	齒科醫師
	郡市別	種別	齒科醫師
一 〇 六	郡市別	種別	齒科醫師
四	郡市別	種別	齒科醫師

(ハ) 郡市別齒科診療所分布表 (昭和十一年末現在)

本 牡 桃 登 栗 遠 玉 志 加 黒	計 吉 鹿 生 米 原 田 造 田 美 川	郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡							
(19)	(1)	(1)	(1)						
二五	五	二	一	五	八	二	二	九	四
(5)									
五	一	一	一	二	四	四	一	四	一
(24)	(1)	(1)	(1)						
二四	六	三	一	七	三	六	三	三	五
一									

備考 (ハ) 内ハ女醫數ノ再掲トス

宮名亘伊柴刈石仙	郡市名	指定學校卒業	外國學校卒業	試験及第	從來開業	計	人口一萬ニ付齒科醫師
城取理具田田卷臺	郡市名	指定學校卒業	外國學校卒業	試験及第	從來開業	計	齒科醫師
郡郡郡郡郡市市	郡市名	指定學校卒業	外國學校卒業	試験及第	從來開業	計	齒科醫師
	郡市名	指定學校卒業	外國學校卒業	試験及第	從來開業	計	齒科醫師
(2)	(1)	(1)	(2)	(10)			
七	一	一	五	四	六	七	三
(2)	(1)	(1)	(4)	(13)			
二	四	二	六	六	一	〇	三
二	一	一	一	一	二	四	六

(ホ) 郡市別齒科醫師分布表 (昭和十一年末現在)

本 牡 桃 登 栗 遠	計 吉 鹿 生 米 原 田	郡 郡 郡 郡 郡 郡					
二市	二〇〇	一七	七	一九	一六	二九	一二
六	五	一	七	二	〇	一	
富永村	宮澤村、玉澤村、宮野村、富野村、大岡村、姫松村、鳥矢崎村、津久毛村、花山村、文字村	北方村、錦織村	野蒜村、赤井村、大鹽村、北村、大谷地村、橋浦村、二俣村	蛇田村	横山村、入谷村、小泉村、新月村、鹿折村		

遠田郡	八	登米郡	九	本吉郡	五	計	二〇六
栗原郡	一〇	桃生郡	三	吉郡	九		二二〇

第二 藥劑師分布狀況

藥劑師ノ分布狀況ハ左表ノ通りニシテ、多ク都會地ニ集中シ、其ノ大部分ハ病院、醫院等ニ勤務シツ、アリ、村落ニ於テ開業ヲ爲シ居ル者ハ極メテ稀ナル狀況ニ在リ。

郡市別藥劑師分布表 (昭和十一年末現在)

郡市別	大學卒業	官公立(指定)藥學專卒業	外國學校卒業	試驗及第	計	同上ノ内藥局開設セルモノ
仙臺市	二	七	四	二	一七	四
石巻市	二	五	二	六	一七	四
刈田郡	一	一	一	一	四	二
柴田郡	一	三	一	一	六	二
伊具郡	一	四	一	一	七	一
亘理郡	一	二	一	一	五	一
名取郡	一	四	一	一	七	一
宮城郡	一	五	一	一	八	一
黒川郡	一	一	一	一	四	一
加美郡	一	三	一	一	六	一
計	二	七	四	二	一七	四

郡市別	大學卒業	官公立(指定)藥學專卒業	外國學校卒業	試驗及第	計	同上ノ内藥局開設セルモノ
志田郡	一	四	一	一	七	一
玉造郡	一	一	一	一	四	一
遠田郡	一	一	一	一	四	一
栗原郡	一	二	一	一	五	一
登米郡	一	一	一	一	四	一
桃生郡	一	一	一	一	四	一
鹿島郡	一	一	一	一	四	一
牡鹿郡	一	一	一	一	四	一
本吉郡	一	一	一	一	四	一
計	二	七	四	二	一七	四

第三 産婆分布狀況

産婆モ亦醫師ト同様都會地ニ多ク、村落ニ至ルニ從ヒテ少數トナルモ、縣下二市二〇〇ヶ町村中開業産婆ナキ町村ハ十五ヶ村ニ過ギズ、比較的良好ナリ。(次表参照)

郡市別産婆分布表 (昭和十一年末現在)

郡市別	指定(學校)若ハ養成所卒業	試驗及第	從來開業	限地開業	計	人口一萬ニ付産婆數	産婆ナキ町村數	同上ノ町村名
仙臺市	二元	四元	五	一	四六三	二〇	一	齊川村、大平村、七ヶ宿村、小原村
石巻市	三	三	四	一	一〇	一六	一	
刈田郡	四	三	一	三	一〇	一六	一	

郡	伊田郡	伊具郡	名取郡	宮城郡	黒川郡	加美郡	志田郡	玉造郡	遠田郡	栗原郡	登米郡	桃生郡	杜吉郡	本社郡
本年中免許ヲ 與ヘタル者 (轉入ヲ含ム)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
本年中死亡廢 業他管轉出 他	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
指定學校若ハ 養成所卒業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
試驗及第	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
附則第四項及第 六項ニ依ルモノ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
他府縣免許	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

第四 看護婦分布状況
看護婦ハ逐年増加ノ趨勢ニアリ、昭和十一年末現在ニ於テ總數約三、〇〇〇名ヲ算ス。之ヲ郡市別ニ觀ルトキハ左表ノ通り

ニシテ仙臺市ノ約二、〇〇〇名ハ殆ド總數ノ三分ノ二ヲ占メ居リ、之等看護婦ノ多クハ病院又ハ醫院ニ勤務シ居リ、又看護婦會ニ加入シ居リテ派出ニ應ズル者モアリ、自宅ニ於テ直接患者ノ需メニ應ジ居ルモノハ極メテ少數ナリ。

郡市別看護婦分布表 (昭和十一年末現在)

郡市別	仙臺市	石巻市	刈田郡	柴田郡	伊具郡	亘理郡	名取郡	宮城郡	黒川郡	加美郡	志田郡	玉造郡	遠田郡
本年中免許ヲ 與ヘタル者 (轉入ヲ含ム)	28	20	2	2	1	1	2	8	1	1	1	1	2
本年中死亡廢 業他管轉出 他	2	2	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1
指定學校若ハ 養成所卒業	76	78	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1
試驗及第	96	113	1	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1
附則第四項及第 六項ニ依ルモノ	56	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1
他府縣免許	165	53	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1
計	1,967	1,455	26	26	31	31	31	31	89	133	133	133	133

郡市別	鍼灸術		按摩術		柔道整復術		鍼灸術兼業		按摩術兼業		鍼灸術兼業		鍼灸兼業	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
伊具郡	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
柴田郡	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
刈田郡	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
石巻市	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
仙臺市	一〇	二	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	二二	六	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六

第五 鍼術、灸術、按摩術營業者分布状況
 縣下ニ於ケル鍼術、灸術、按摩術（マッサージ術ヲ含ム）柔道整復術等ノ營業者ハ昭和十一年末ニ於テ總數七二一名ニシテ
 内女營業者ハ一三六名約六分ノ一ヲ占ム。詳細左表ノ如シ
 郡市別鍼灸術、按摩術營業者分布表
 （昭和十一年末現在）

郡市別	鍼術		灸術		按摩術(マッサージ術ヲ含ム)		柔道整復術		鍼灸術兼業		按摩術兼業		鍼灸術兼業		鍼灸兼業	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本吉郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
杜鹿郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
桃生郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
登米郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
栗原郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遠田郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
玉造郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
志田郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
加美郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
黒川郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮城郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
名取郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
亙理郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六

郡市別	鍼術		灸術		按摩術(マッサージ術ヲ含ム)		柔道整復術		鍼灸術兼業		按摩術兼業		鍼灸術兼業		鍼灸兼業	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本吉郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
杜鹿郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
桃生郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
登米郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
栗原郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遠田郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
玉造郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
志田郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
加美郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
黒川郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮城郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
名取郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
亙理郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六

第六 醫業類似行爲業者分布状況

醫業類似行爲ハ從來之方取締法規ナカリシガ、昭和十二年二月縣令第十一號ヲ以テ醫業類似行爲取締規則ヲ制定シ、醫業法令ニ基ク診療又ハ施術以外ニ渉ル疾病ノ治療、豫防、保健ヲ目的トスル光、熱、機械、器具、四肢等ニヨル施術行爲ノ取締ヲ行フコト、ナリタルガ、同規則ニ依リ届出アリタル業者數次表ノ通りナリ。

郡市別醫業類似行為業者分布表

(昭和十二年七月十五日現在)

郡市別	種別	郡市別							計
		光電線療法	温熱療法	指壓、掌療法	塗布療法	其ノ他	計		
仙臺市	二四	二						二四	
石巻市	二							二	
刈田郡									
柴田郡									
伊具郡									
亘理郡									
名取郡									
宮城郡									
黒川郡									
加美郡									
志田郡									
玉造郡									
遠田郡									
栗原郡									
登米郡									
桃生郡									
牡鹿郡									
計	六一	二〇	四七	三	一九	一五〇	九		

第七 各種検定試験成績

本縣ニ於テハ年々産婆、看護婦、鍼術、灸術、按摩「マツサージ」術、藥種商、理容術等ノ檢定試験ヲ施行シ居ルガ、産婆看護婦、藥種商、理容術ノ四者ハ春秋二回、他ハ一回宛ノ試験ニシテ其ノ成績次表ノ如シ。

(イ) 産婆試験成績表

年次	回数	種別	出願者數	受験者數	同ノ内		受驗者百ニ對スル合格率
					合格者數	不合格者數	
昭和九年	第一回	學地說	一五	一八九	四一	一四八	二・六九
	第二回	學地說	八	七九	四八	三二	六〇・七五
昭和十年	第一回	學地說	一七	一八一	五五	一〇六	二九・八〇
	第二回	學地說	七	六七	二九	三八	四三・二八

昭和十一年	回数		出願者数	受験者数	合格者数		不合格者数	受験者百ニ對スル合格者数
	第一回	第二回			上	内		
	學說	學地			141	56	105	150.53
	實地	學說			77	40	37	51.94
	學地	實地			105	21	84	19.81
	實地	實地			44	33	11	56.81

備考 實地試験ハ學說試験合格者ニ對シテ施行スルモノニシテ、前試験ニ於テ學說ノミ合格シ實地不合格モノガ更メテ實地ノミ受験スル場合及學說合格者ガ直チニ實地試験ヲ受クル場合ノ双者ヲ含ム

(ロ) 看護婦試験成績表

昭和十一年	昭和十年	昭和九年	回数		出願者数	受験者数	合格者数		不合格者数	受験者百ニ對スル合格者数
			第一回	第二回			上	内		
			267	209	149	77	133	41.62		
			305	260	210	131	218	16.25		
			165	152	110	131	131	13.15		
			308	233	155	77	196	11.00		
			166	155	77	128	238	23.87		

(ハ) 鍼術、灸術試験成績表

昭和十一年	昭和十年	昭和九年	回数	出願者数	受験者数	合格者数		不合格者数	受験者百ニ對スル合格者数
						上	内		
			35	35	35	6	29	17.14	
			48	38	38	4	34	10.53	
			60	55	55	6	49	9.43	

(ニ) 按摩マッサージ術試験成績表

昭和十一年	昭和十年	昭和九年	回数	出願者数	受験者数	合格者数		不合格者数	受験者百ニ對スル合格者数
						上	内		
			10	20	9	4	5	44.44	
			11	22	11	4	7	36.36	
			8	18	6	2	4	33.33	

(ホ) 藥種商試験成績表

昭和十一年	昭和十年	昭和九年	回数	出願者数	受験者数	合格者数		不合格者数	受験者百ニ對スル合格者数
						上	内		
			2	33	2	1	1	27.27	
			1	28	2	5	3	17.86	
			1	36	3	5	2	13.89	

備考 試験回数ハ昭和九年迄ハ二年二回施行シ居リタルガ同十年ヨリ一回ニ改正ス

(ハ) 理容術試験成績表

年次	回数	出願者数	受験者数	同 上		受験者百ニ對スル 合格者数
				合格者数	不合格者数	
昭和九年	第一回	三三三	三三二	三三六	七六	一五五
	第二回	三三三	三二八	九九	九六	三三〇
昭和十年	第一回	一九九	一九五	八三	一一二	四二五
	第二回	一七三	一六八	三三	一一一	四二五
昭和十一年	第一回	二七六	二七二	三三	一三九	一八七
	第二回	一八二	一七九	八	九二	四九一

『附』ノ一 縣立診療院ノ狀況

縣立診療院ハ管内ノ醫師、産婆ノ開業ナキ僻村ニ醫療普及ト妊産婦取扱ノ完全ヲ期スル爲メ昭和三年以降設置シタルガ現在八ヶ所ヲ有ス。而テ診療院ノ建物ハ當該村ニ於テ建設シ且毎年壹千圓宛分擔金トシテ納付シ、縣ニ於テハ診療院設置規程ニ依リ醫師、産婆、看護婦、事務員ヲ置キ一般ノ診療、妊産婦ノ取扱ヲ爲シ、アリ。當貧困者ニ對シテハ醫療料減免ヲ行フ。

(イ) 縣立診療院狀況表

診療院名	開設年月日	昭和九年度		昭和十年度		昭和十一年度	
		患者取扱人員	同上延人員	患者取扱人員	同上延人員	患者取扱人員	同上延人員
栗原郡萩野村	昭和三年五月十二日	一、四四六	六、七六五	一、三六七	六、〇八一	一、五五三	六、九二五
刈田郡圓田村	同 五月二十一日	九四七	四、七〇一	九五八	四、六二八	一、三三七	五、三二七
玉造郡鬼首村	同 五月二十七日	四七七	一、八八五	三三八	一、三九七	三二二	一、〇九五
栗原郡長崎村	昭和四年五月七日	一、〇八一	三、九七五	一、二二四	四、六一五	一、〇八一	六、〇四〇
遠田郡中埜村	同 九月十九日	五八三	四、〇三一	六六六	三、八六四	六三六	三、八六四
登米郡豊里村	昭和五年六月四日	一、一三九	五、四〇一	一、六二二	四、二二九	一、一三七	四、九二七
遠田郡笹野村	同 五月二十六日	七二〇	一、八三九	六〇四	一、九一五	六七三	二、四三三
栗原郡清瀬村	昭和六年五月二十日	一、〇九〇	四、八三四	八八三	三、七五一	七三九	三、二四一
計		七、四九三	三三、四三八	七、二二二	三〇、四八〇	七、二九二	三三、八三七

(ロ) 縣立診療院救療患者調査表

診療院名	昭和九年		同 十年		同 十一年	
	救療患者實人員	同上治療延日數	救療患者實人員	同上治療延日數	救療患者實人員	同上治療延日數
萩野	三〇	一八〇	七	五五	四四	一三七
圓田	四三	三七三	一〇四	九八一	六四	四六三
鬼首	七五	九四三	二七	五三三	八三	九九三
長崎	八二	五七八	一八四	一、〇三三	一八七	一、〇九〇
中埜	六二	九四一	六四	一、四一三	五四	九八八

院名	昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
	出生數	内診療院取扱數	出生數	内診療院取扱數	出生數	内診療院取扱數
計	110	101	117	111	116	118
豊里	110	101	117	111	116	118
笠岳	75	71	76	74	75	76
清瀧	25	29	24	26	25	27

二一八

(ハ) 縣立診療院分娩取扱状況調査表

院名	昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
	出生數	内診療院取扱數	出生數	内診療院取扱數	出生數	内診療院取扱數
計	1,495	1,340	1,490	1,410	1,487	1,374
萩野	155	141	153	146	156	144
圓田	363	333	348	331	351	331
長崎	159	146	150	141	156	146
中坪	108	100	113	107	111	106
豊里	333	313	384	366	395	355
笠岳	226	213	268	266	305	283
清瀧	166	153	185	173	175	163
鬼首	166	153	185	173	175	163

備考 鬼首村並ニ昭和十一年ニ於ケル豊里、笠岳ハ産婆缺員

「附」ノ二 無醫村ニ對スル醫療機關ノ普及施設

内務省ノ十ヶ年計畫ニ基ク、無醫村(略人口五千ヲ單位トス)ニ對スル醫療機關ノ普及施設ハ、初年度施設トシテ昭和十二年度ニ於テ本縣ニ對シ四ヶ所ノ割當アリ、本縣ニ於テハ縣下無醫村六十六ヶ村中左ノ六ヶ村ヲ選定、内ニヶ村ハ夫々一村毎ニ他ノ四ヶ村ハ二ヶ村ヲ合シテ一區劃トシ、合計四ヶ所ノ縣立診療所ヲ設置ノ上、右六ヶ村ノ醫療機關ニ充ツルコトニ決定、内一ヶ所ハ現在未確定ナルモ、何レモ昭和十二年十月ヨリ開設ノ豫定ナリ。
 スクシテ、本縣ニ於テハ前記既設ノ診療院八ヶ所ト合セテ合計十二ヶ所ノ縣立診療所ノ設置ヲ見ルコト、ナルガ、更ニ本年中ニ開設豫定ノモノ一ヶ所(本吉郡大谷村)アリ。

無醫村ニ對スル診療所設置村調 (昭和十二年度 設置決定)

診療所設置地名	同上診療區域	同上人口	備考
桃生郡赤井村	赤井村	三、三三三	
志田郡敷玉村	敷玉村	四、九五七	
宮城郡根白石村	根白石村	五、七二〇	
名取郡玉浦村	玉浦村	六、七八〇	未確定

二一九

「附」ノ三 昭和十、十一年度醫療救護實施狀況

一 縣ノ救療狀況

昭和十年度施設 昭和七年以降御下賜アリタル醫療救護ノ資金ハ昨九年度ヲ以テ終了シ、本年度ハ國庫交付金ノミニテ繼續スルコト、ナリタルガ、之ガ交付金ニ於テモ多少減額セラレ、從來通り繼續困難トナリ施行範圍縮少ノ已ムナキ實情ニ至レルモ、從來ノ實績ニ徴シ廢止町村等ニ大ナル考慮ヲ拂ヒ、四月ハ其儘トシ、五月以後ニ於テ四十ヶ村ヲ有スル出張診療所ヲ三十三ヶ村ニ減少シ、巡回診療ハ先ヅ以テ從來ノ儘十七ヶ町村十九ヶ所ヲ存續シテ實施ヲ了シタリ。

昭和十一年度施設 本年度ニ於テモ國庫交付金ニ依リ繼續スルコト、ナリタルモ、交付金額ハ前年度ニ比シ更ニ減額セラレ施行上一層ノ困難ヲ來タシ、出張診療町村及巡回診療場所等共ニ多數廢止ノ餘儀ナキ實情ニ至リタルモ、出張診療醫ノ手當減額ニヨリ、以テ出張診療村二十三ヶ村ヲ存置シタリ。而シテ巡回診療ハ從來ノ二班ヲ一班ニ減ジ、十三ヶ村十四ヶ所ニ對シ實施ヲ爲シ小額ヲ以テ效果ノ大ヲ圖レリ。

(イ) 救療費國庫交付金額調査表

年 度 別	交 付 總 額	縣 直 接 施 行 費		濟 生 會 委 託 救 療 費
		上	内	
昭 和 十 年 度	四七、九八七	三三、三六六	一四、六二一	
同 十 一 年 度	三〇、二七七	一八、七四二	一一、五三五	

(ロ) 醫療救護成績表

年 度 別	施 設 別	取 扱 患 者 實 人 員	同 上 延 人 員

年 度	出 張 診 療		巡 回 診 療	
	人	回	回	計
昭 和 十 年 度	四、二一四	四、四一五	八、六二九	一三〇、八二四
昭 和 十 一 年 度	二、一七三	一、七九六	三、九六九	五九、〇四八
				二二、六一三
				八二、六六一

二 恩賜 財團 濟生會 診療狀況

本會ノ診療ハ之ヲ直接診療ト委託診療トニ區別シ、直接診療ハ本會長町診療所、出張診療所及巡回診療班ニ於テ行ヒ、委託診療ハ縣下ノ病院、其ノ他開業醫ニ委託シテ之ヲ行フ。而シテ右ノ内出張診療、巡回診療ハ從來縣ニ於テ施行中ナリシモ昭和十二年度ヨリ本會ニ於テ施行スルコト、ナリタリ。其ノ診療狀況左ノ如シ。

(イ) 委託救療費配當額調査表

種 目	年 度 別		備 考
	昭 和 十 年 度	十 一 年 度	
濟 生 會 配 當	二、三五二	二、三四四	
普 通 救 療 費	一、四五三	一、五九一	
國庫補助特別配當	八九一	七五三	

種別	年度別	昭和十年		昭和十一年		備考
		昭	和	十	一	
特別臨時救療費其ノ他						
臨時委託醫療救護費						
臨時委託醫療救護費						
臨時委託醫療救護費追加配當						
救護費縣補助						
前年度繰越額						
救療費合計						

(ロ) 救療成績表

種別	年度別	昭和十年		昭和十一年		備考
		昭	和	十	一	
計						
診同患者						
療延人員						
費員						
者患來外						
診延實						
療人員						
費員						
者患院入						
診延實						
療人員						
費員						

救療費合計	昭	和	十	一
一、三五五	一、三五五	一、三五五	一、三五五	一、三五五
三、一五六	三、一五六	三、一五六	三、一五六	三、一五六
九、六三	九、六三	九、六三	九、六三	九、六三
二、六八二	二、六八二	二、六八二	二、六八二	二、六八二

第二節 藥事

第一 藥品營業者

藥品營業者ハ逐年増加シ昭和十一年末現在藥劑師百一名、藥種商三百三十九名アリ。藥品ハ主トシテ東京、京阪地方ヨリ移入セラレ、本縣ニ於テ製藥セラル、モノハ極メテ少量ナリ。

(イ) 藥品營業者累年比較表

年別	藥劑師ニシテ賣品ヲ販者	藥劑師使用ノ四ニ依ル者		藥律附則第二項該當者		其ノ他	商計	合計
		昭	和	十	一			
昭和七年	九三	一三	一	七	一七四		100	二九二
昭和八年	九	一三	三	五	一八八		111	三二〇
昭和九年	一〇一	一〇	四	四	二二七		165	三六七
昭和十年	一〇〇	三	四	四	二七三		173	三七一
昭和十一年	一〇一	三	四	四	三〇〇		199	四〇〇

備考 表中藥律第三十七條ノ四ニ依ル者トアルハ土地ノ狀況ニ依リ指定藥品ノ販賣授與ヲ許可シタル者、藥律附則第二項該當者トアルハ從來ノ藥種商ニシテ新法ニ基キ届出指定藥品ノ販賣授與ヲ認めラレタル者ナリ

(ロ) 郡市別薬品営業業者数表

(昭和十一年末)

郡市別	営業業者数	郡市別	営業業者数	郡市別	営業業者数	郡市別	営業業者数
郡市	二〇三	郡市	九	郡市	一二	郡市	二二
仙台市	二〇三	加美郡	九	栗原郡	一二	栗原郡	二二
石巻市	二四	遠田郡	二四	登米郡	七	登米郡	一九
刈田郡	九	牡鹿郡	五	本吉郡	一四	本吉郡	二二
伊具郡	一二	桃生郡	一〇	計	七	計	四四〇
柴田郡	一四	志田郡	一四				

第二製薬業者

製薬業者ハ逐年多少増加シツ、アルモ、昭和十一年末現在二十九名、發賣方數百三十二ヲ算スルニ過ギズ。其ノ品名別表ノ通ニシテ不振ナル狀況ナリ。

(イ) 製薬業者累年比較表

(局方外薬品製造者ヲ含ム)

年別	薬剂師		薬剂師使用		其他		計	
	人員	發賣方數	人員	發賣方數	人員	發賣方數	人員	發賣方數
昭和七年	八	六	三	五	八	一五	一九	二六
昭和八年	二二	一〇五	四	七	八	一五	二三	二七
昭和九年	三三	一〇九	四	七	八	一五	二五	二九

(ロ) 薬品製造數量調査表

(局方外薬品省略)

品名	年別	昭和九年		同十年		同十一年	
		人員	發賣方數	人員	發賣方數	人員	發賣方數
石炭酸水		二〇〇	四	三〇〇	九	一六	一四〇
防疫用石炭酸水		二〇〇	四	二〇〇	七	一五	一四〇
鹽酸加石炭酸水		二二〇	四	一〇〇	七	二九	一三〇
薄荷水		二〇〇	四	一〇〇	七	二七	一三〇
アミンモニア水		三〇〇	四	一〇〇	七	二七	一三〇
生理食鹽水		二五、五〇〇	四	八三	九	二七	一三〇
蒸溜水		二五、五〇〇	四	一、二六五	九	二七	一三〇
リソゲル液		三六〇	四	一〇五	七	二七	一三〇
シソツブ		三、五〇〇	四	三〇〇	七	二七	一三〇
ゼネガシロツブ		一六〇	四	一〇〇	七	二七	一三〇
橙皮シロツブ		一〇〇	四	五〇	七	二七	一三〇
醋酸		五二〇	四	五〇	七	二七	一三〇
稀硫酸		三〇〇	四	一〇	七	二七	一三〇

稀鹽酸	四六〇
カシヤン	一〇〇
クレゾール石鹼液	
アスピリン錠	一・五
製石灰	四、五〇〇
脱脂綿	一五〇
	一、〇六〇
	二〇
	四、五〇〇
	二、一〇〇

第三 藥 局

昭和十一年末現在ハ九十七名ナルガ逐年多少増加シツ、アリ。

種 別	昭和七年	同 八年	同 九年	同 十年	同 十一年
藥劑師ノ開設スル藥局	八二	八八	八五	八八	八九
藥劑師ニ非ザル者ノ開設スル藥局數	四	四	五	七	八
計	八六	九二	九〇	九五	九七

第四 藥品巡視成績

昭和十一年度ニ於ケル藥品巡視ノ成績ハ次表ノ如クナルガ、概シテ醫師、獸醫師ノ調劑所ノ成績不良ニシテ不良箇所醫師ノ三四%、獸醫師ノ三三%、藥劑師一二%、齒科醫師一〇%順次之ニ次ギ、藥種商ハ二%ニシテ良好ナリ。

藥品巡視成績表

(昭和十一年)

種 別	巡視スベキ箇所數	巡視シタル箇所數	不 良 藥 品 發 見 箇 數	規則違反處罰數
藥劑師	八九	四三	六	三
藥劑師ニ非ザル者	一二	二		
藥劑師ノ開設スル藥局	八	三		
藥劑師ニ非ザル者ノ開設スル藥局	三〇〇	三九	一	四
製藥者	一七	二		
病院	七四	六	三	七
醫師	五一五	七六	二六	四五
齒科醫師	二〇七	三〇	三	六
獸醫師	一一六	六	二	九
計	一、三三八	二〇七	四一	一〇五

第五 縣下藥用植物收穫狀況

藥用植物ノ栽培者極メテ尠ク、一般ニ山野ニ自生スルモノヲ採取スルニ過ギザル現況ニシテ、其ノ産額モ亦尠シ。

藥用植物類(罌粟ヲ除ク)收穫量調査表

(單位 疋)

植物名	年 別	昭和九年	同 十年	同 十一年
サフラン		一	二	二・五

接木松木土岩白白夏ジ升當桔貨									
骨天附通									
木蓼房子草落求燭草葉麻藥根連									
		一、二五	三〇〇	二七				二八	六八
									一五二
		二	三八	三五				五六	四〇
									一、二三二
									三、〇一六
		五一〇	四八七	五〇二	七六	五九	四〇	五一	一二
									四三
									一五〇
									五〇

二二八

第六 毒物劇物營業者

昭和十一年末ノ營業者ハ四百六十一名ニシテ漸次増加シツ、アリ。

年	別	毒物劇物營業者	單ナル毒物營業者	計
		藥劑師	藥種商	
		製藥者	劇物營業者	

昭和七年	九二	二〇〇	一	三〇四
同八年	九九	二一〇	一	三二二
同九年	一〇二	二五五	一	三七〇
同十年	一〇八	二九三	一	四一三
同十一年	一〇九	三三九	一	四六一

第七 阿片取扱並販賣狀況

阿片製造人ハ昭和二年許可シタル者一名アリタルモ、同四年衛生局ヨリノ通牒ニ基キ罌粟栽培反別ヲ許可セザルヲ以テ寂寥ノ感アリシ處、東北振興ノ一助成策トシテ昭和十年以降三十町歩ノ許可ヲ得タルニ依リ、總數五百十一名ノ多キニ涉リ罌粟栽培ヲ許可シタルガ、經驗ニ乏シキト冷害甚シカリシ爲、生阿片ノ「モルヒネ」含量最多十九%、最少八%、平均一一%、納付者僅ニ百四十三名、納付數量三〇・八疋ノ僅少額ニシテ甚シク不成績ナリタリ。

醫藥用阿片末ノ指定販賣人ハ醫藥用阿片末ノ需給圓滑ナラシムル爲、各警察署管内ニ一人宛配置スルノ標準ヲ以テ指定シ在リ。而テ本消費ノ狀況ハ阿片製劑及麻藥ノ普及ニ壓倒セラレ、逐年單ナル阿片末ノ消費數量漸減ヲ示シ昭和十一年度ノ拂下高僅ニ五瓦入五十個ニ過ギズ。

第八 麻藥取扱並販賣狀況

本縣ニハ麻藥タル藥品ノ製造者ハ無ク麻藥ニ屬スル製劑並賣藥ノ調製者ノミナリ。

(イ) 麻藥ニ屬スル製劑及賣藥調

年	別	製劑	賣藥者	發賣方	數
---	---	----	-----	-----	---

二二九

年別	製造業者	發賣方數
昭和八年	一	三四
同九年	二	三九
同十年	二	三五
同十一年	二	三五

(ロ) 麻薬原料トシテ麻薬ニ非ザル物調

年別	製造業者	發賣方數
昭和八年	一一	一七
同九年	一一	一七
同十年	一一	一六
同十一年	一六	二四

(ハ) 麻薬中毒患者調 (其ノ一)

年別	種別			計	中毒動因別	
	本縣人	他縣人	朝鮮其ノ他		疾病治療ノタメ注射ノ内服	享樂ノタメ注射ノ内服
昭和十年	一二	一	一	一四	一	一
同十一年	一七	一三	四	三四	一	一

(ニ) 中毒麻薬種類別調 (其ノ二)

年別	モルヒネ酸	ヘロイン酸	コカイン酸	アピナール	ナロコポン	ナルコポン	パピナール	パントボン	計
昭和十年	七	一	一	一	一	一	一	一	一
同十一年	七	一	一	一	一	一	一	一	一

第九 賣薬ニ關スル状況

舊來ノ賣薬營業者漸次減少シ、新法ニ依ル營業者著シク増加シ從テ發賣方數モ亦増加シ、十一年末現在千百四十三方ナリ。

(イ) 賣薬營業者數表

年別	藥劑師	其ノ他ノ製造業者		計	輸移入營業者數	賣薬請賣營業者數	賣薬行商者數
		醫師及藥劑師ヲ使用スル者	賣薬法第二十四條ニ依ル營業者				
昭和七年	六八	一八	一七三	三六	一	三、六五	六五
同八年	七四	一三	一六八	三三	一	三、五一	五七
同九年	八五	二二	一六三	三四	一	三、五四	五八
同十年	八三	二三	一五七	三四	一	三、五四	五七
同十一年	七七	二四	一四八	三八	一	三、三九	七七

(ロ) 賣藥免許方數累年比較表

年 別	昭和七年	同 八年	同 九年	同 十年	同 十一年
免許方數	八九二	九三七	一、〇〇〇	一、〇四〇	一、一四三

(ハ) 賣藥檢査成績表

年 別	昭和七年	同 八年	同 九年	同 十年	同 十一年
檢査すべき箇所數	三二六	三三三	三三三	三四五	三三八
檢査シタル箇所數	五四	六二	四八	五六	四七
違反件數	一一	三七	一六	一九	六三
處罰數	八	三	二	三	二

備考 右ハ賣藥營業者ノミニ付テノ數ナリ

正 誤 表

頁	行	備 考	誤	正
本文 一五	二五 本文 三	(表) 備考	昭和九年 尤モ	昭和八年 最モ
三一	一一 人造水ノ最下段		一〇六	一〇六
三一	一五 ラムネ		一三八	一三五
五一	一七 「第八節温泉」 本文二行目		狹ミ	狹ミ
五三	一一 二段目		湯濱、湯倉温湯温泉	湯濱、湯ノ倉、温湯温泉
五三	二二 二段目		東北本縣	東北本縣
五四	二 下ヨリ二段目		ク	ク
五四	一 一	(末尾)	(自動車軌道)	(自動車)
六二	二 本文 初行	核結療養所	核結療養所	結核療養所
六二	(イ)表 備考三	疹醫院	疹醫院	病醫院
六六	(ハ)表 種別欄三	「レントゲン」諸	ツベルリン反應	ツベルリン反應
六六	(ロ)表 種別欄三	「検査」五段目	ツベルリン反應	ツベルリン反應
八三	(ロ)表 種別欄三	下ヨリ三段目	癩	癩

61
497

終